流転の建屋 秀吉しのぶ

関西セミナーハウスの能舞台 京都市

時の回廊

豊臣秀吉の没後300年に建築された能舞台（京都市左京区）

京都能楽界の明治の一大事業と語り継がれる建屋が、比叡山西麓の京都市左京区に伝わる。公益財団法人「日本クリスチャン・アカデミー」が運営する会議・宿泊施設「関西セミナーハウス」の能舞台だ。造られたのは太閤・豊臣秀吉没後300年の1898年。その後、狂言の茂山千五郎家など所有者が度々変わり、現在の地に至ったという。

能舞台は正面と左右の三方にガラス戸を取り付けるなどの改修が施されているが、松が描かれた鏡板や橋掛り（廊下状の舞台）を備えた本格的なもの。一般的な建物内に設ける舞台と違って、セミナーハウスの日本庭園に独立して建ち、自然光が差し込む舞台になっている。

丸太の柱が特徴

特徴は舞台四隅の丸い柱。秀吉の300年祭で催す奉納の能楽用に急いで造られたため、北山杉を四角に削らずに丸太のまま用いたと伝わる。

この秀吉ゆかりの奉納用舞台の所在は、所有者が変わるうちに分からなくなっていた。だが、京都造形芸術大学舞台芸術研究センターの天野文雄所長が二十数年前、セミナーハウスを利用した際に「能舞台の丸い柱は特異」と注目した。奉納用舞台のその後について、三世茂山千作の書「狂言85年」などの文献に「（比叡山西麓の）修学院の離宮の近くに」建てられたとあることから、セミナーハウスのものがその舞台と指摘。多くの能楽関係者も認めた。

奉納能楽は300年祭のために組織された「豊国会」（会長・黒田長成侯爵）が主催した。1898年4月19日から4日間にわたり、京都・阿弥陀ケ峰中腹の太閤坦（東山区）に舞台を建て行われた。

世話役の1人、二世千作の書「狂言八十年」によると、宝生九郎、梅若実、桜間伴馬ら東西の能楽・狂言師計218人が出演。能を愛好した秀吉が自ら演じた「老松」や「田村」などを上演している。

舞台は同年もしくは翌年秋、平安神宮に移築され、皇太子時代の大正天皇が台覧する能楽の上演に使用。その後、豊国神社（東山区）の蔵に保管された。

二世千作は、舞台が死蔵されているのを惜しんで購入。1903年に京都・四条河原町近辺に移築し、京都能楽堂を建設した。開設当初はひんぱんに用いられたが、04年に日露戦争が勃発して公演が途絶えた。二世千作は能楽堂を維持できなくなり、京都の有力者で組織する京都倶楽部に譲渡したという。

その後の経緯は、三世千作の書「狂言85年」に触れられている。同書によると、京都倶楽部の舞台として使用されていたが、道路開設のために移転を余儀なくされ、神戸の造船事業者の手に渡った。この事業者は神戸への移築を考えたが取りやめ、京都・伏見の蔵にいったん保管した後、修学院離宮近くの別荘に移築したという。

能の上演時は椅子が設置される日本庭園

一時は会議室に

関西セミナーハウス総責任者のシュペネマン・クラウス氏によると、財団は62年に別荘を購入。67年に隣接地を入手し、客室や会議室、食堂からなる南棟と北棟を建設。能舞台は当初、会議室として使っていたが、97年に能を上演できるように修復した。

同ハウスでは能舞台の利用を促すため、能楽など伝統芸能に取り組む学生を対象に宿泊とセット料金のコースを設けている。シュペネマン氏は「維持は大変だが、本来の目的に沿って活用していきたい」と話す。

文　編集委員　小橋弘之
写真　大岡敦

電子版で関西のニュースまとめ読み▼地域→関西

《交通》叡山電鉄「修学院」下車徒歩約20分。年中無休。能舞台や日本庭園は関西セミナーハウスの受付に告げれば見学できる。☎075・711・2115。

《ガイド》能舞台以外にも大正時代の築という茶室「清心庵」や待合所、小門、茅葺きの門など個人の別荘だった時代のものをそのまま残している。

もっと関西

あのまち この味

大阪・河内地域

毛馬キュウリ

硬く細長く 栽培に手間

酢の物にすると、ぱりっとした食感が歯に心地よい。毛馬キュウリは普通のキュウリよりも淡い緑色で、硬く、形状も細長いのが特徴だ。

大阪府が認定する「なにわの伝統野菜」の1つで、江戸時代から戦前にかけて大阪市都島区の毛馬町近辺で栽培されてきたのが名前の由来。戦後は濃い緑色の品種が普及して食卓から姿を消したが、1990年代に入り大阪府が保管されていた種からの復活に成功。以来、大阪南部を中心に作られている。

「毛馬キュウリは手間キュウリ」と話すのは、富田林市で10年間栽培を手掛けてきた農家の松尾善一さん。曲がりやすい実をまっすぐにするため、竹筒で包んで形を整える。長く伸びる茎を頻繁に切る必要もあり、栽培に手間がかかる。

5ミリほどの厚さに切ってソテーするのもおすすめだ。ほくほくとした食感で、軽く塩こしょうを振れば手ごろな酒のおつまみにもなる。毛馬キュウリは道の駅などで販売している。「とにかく一度食べてみて」と松尾さんは話す。

（大阪経済部　出村政彬）